JENESYS2026

日韓学術文化交流事業訪韓団（第 1～2 団）派遣事業の記録

１．プログラム概要

【目的・概要】「対日理解促進交流プログラム」の一環として、日本全国から選抜された教育関係者等 61 名が、8 月 24 日～30 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的として訪韓しました。一行はソウル特別市、京畿道城南市・坡州市・高陽市を訪問し、教育現場をはじめとする各種視察、関連講義聴講、関係者との懇談等を通じて、韓国に対する理解を深めるとともに、日本の魅力やプログラム中の学び等について SNS 等で発信しました。

【参加者】日本の教育関係者等　合計 61 名

【訪問地】訪韓（ソウル特別市 61 名、京畿道城南市・坡州市・高陽市 61 名）

【日程】

■　プレプログラム（オンライン事前学習）:

7 月 25 日（土）　オリエンテーション（プログラム説明）
【交流】日韓学術文化交流事業訪日団参加者とのオンライン意見交換会

■　派遣プログラム :

8 月 24 日（月）　仁川国際空港から入国、オリエンテーション
8 月 25 日（火）　歓迎式
（第 1 団）【学校訪問・交流】ソウル杏峴初等学校（模擬授業、給食体験含む）
（第 2 団）【学校訪問・交流】沖岩高等学校（模擬授業、給食体験含む）
8 月 26 日（水）　（第 1 団）【学校訪問・交流】福井初等学校（模擬授業、給食体験含む）
（第 2 団）【学校訪問・交流】セッピョル中学校（模擬授業、給食体験含む）
【視察】南山タワー
8 月 27 日（木）　【視察】坡州非武装地帯（DMZ）、現代モータースタジオ高陽
8 月 28 日（金）　【表敬・講義】在大韓民国日本国大使館公報文化院
【視察】国立中央博物館
【講義】韓国の教育概要
【講義・文化体験】「ハングルカリグラフィーへの理解」、扇子作り
【交流】ホームステイ対面式
8 月 29 日（土）　ホームステイ、成果報告会
8 月 30 日（日）　仁川国際空港から出国

２．記録写真

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>2026 年 8 月 25 日【学校訪問・交流】ソウル杏峴初等学校（日本の教員による模擬授業の様子）</td><td>2026 年 8 月 26 日【学校訪問・交流】セッピョル中学校（日本の教員による模擬授業の様子）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>2026 年 8 月 27 日【視察】坡州非武装地帯（DMZ）</td><td>2026 年 8 月 28 日【表敬・講義】在大韓民国日本国大使館公報文化院</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>2026 年 8 月 28 日【視察】国立中央博物館</td><td>2026 年 8 月 28 日【講義】韓国の教育概要（全春蓮（チョン・チュンリョン）中源大学大学院教授）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>2026 年 8 月 28 日【講義・文化体験】「ハングルカリグラフィーへの理解」、扇子作り</td><td>2026 年 8 月 29 日ホームステイ（本年 6 月実施の訪日団に参加した韓国の教員宅に滞在した様子）</td></tr>
</table>

３．参加者の感想（抜粋）

◆　日本　教員

ホームステイを通じて、ホストファミリーである韓国の教員と深い話ができた点がよかったです。韓国の教員が実際に働きながら感じていることや悩み等について、詳細に聞くことができました。国が異なったとしても、共通点が多いということを改めて実感しました。また、互いに相手国のよさについて伝え合うことができたと思います。教育以外にも、個人的な関心事項等について話すことで、教員としてだけではなく、個人対個人としてつながることができたのではないかと思います。

◆　日本　教員

学校訪問時に、韓国の児童を対象に模擬授業を行うことができた点が貴重でよい経験になりました。日韓両国の児童の反応の違い、話の聞き方の違い、韓国の先生方の指導方法の違いについて、直接肌で感じることができました。日本も韓国も児童が楽しむ姿は同じであることにうれしさを感じました。

◆　日本　教員

学校訪問を通して、教育現場を直接目で見て肌で感じることができました。また韓国の先生方と交流する機会もあり大変有意義でした。今後も交流を続けていきたいと思います。

◆　日本　教員

ホームステイが最も印象に残りました。韓国の方の生活を知ることができたと同時に、ホストが韓国の学校教員だったため、日韓の教育について意見を交えることができ、貴重な体験となりました。

４．受入れ側の感想（抜粋）

◆　ソウル杏峴初等学校　受入れ担当教諭（2026 年度日韓学術文化交流事業訪日団参加）

2026 年度日韓学術文化交流事業訪韓団の訪問校に選ばれ、日本の先生方に韓国の小学校教育の現場をご紹介し、私たちが共に進んでいくべき教育者としての指向点について考えることができる意義深い機会を得ることができました。大変やりがいがあり、うれしく思いました。たった一日の訪問でしたが、日本からお越しになる先生方をお迎えするために、本校の児童たちは数か月前から心待ちにしながら、様々な活動を準備しました。 互いの文化を知り、心を分かち合いながら準備してきたその過程自体が、児童たちにとっても大切で意味のある贈りものになったことと思います。今後も日韓両国が互いに理解し尊重し合い、良好な関係を継続していくことを願うとともに、今回の交流で築かれた貴重な縁が、今後も継続的な教育交流と友情へとつながることを期待しています。さらに、両国の教育者と児童が互いに学び合い、成長し、よりよい未来を共に築いていくことを願っています。

◆　福井初等学校　受入れ担当教諭（2026 年度日韓学術文化交流事業訪日団参加）

訪韓団一行の本校訪問は、本校及び管内の教員が日本の教員と教育上の課題を共有し、互いに共感し合いながら、視野を広げる意義深い機会となりました。児童たちも自ら準備した歓迎公演や学校ツアーについて、日本の先生方の反応が大変よかったため、喜びと達成感を得たようでした。特に、6 年生の児童が授業の一環として日本についてインタビューを行った際、親切に応じてくださったおかげで、日本の

ことをより深く理解することができました。今回の出会いを通じて形成された関心や興味は、今後の世界市民教育や国際交流授業へとつながり、より豊かな交流活動の基盤となることが期待されます。

◆　**セッピョル中学校　校長**

日韓交流事業の一環として日本の教員 31 名が訪れた際、生徒たちは喜びを隠しきれず、大きな拍手と歓声で出迎えました。たどたどしい日本語でまず挨拶を交わし、浴衣を着た先生のそばにこぞって駆け寄り、話しかけようとする姿からは、言葉の壁を越えようとする純粋な心が感じられました。

相撲のルールなどを一緒に学び、交流会で両国の教師たちが向かい合って語り合った時間は、互いを理解するための貴重な学びの場となりました。

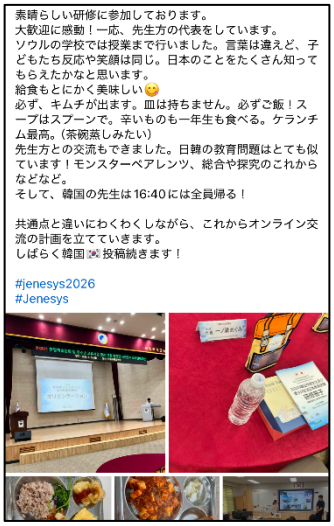
日韓交流協力学校の校長として、国境を越えて共に成長する真の交流の意味を改めて実感した意義深い一日であり、このような機会がさらに広がることを願っています。

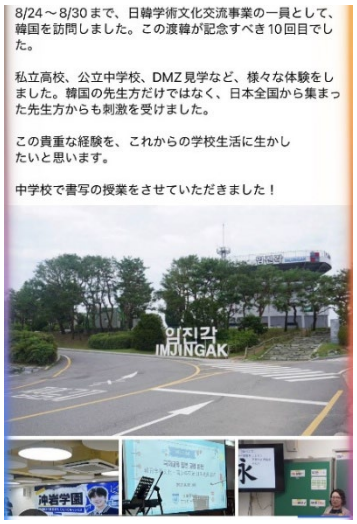
◆　**訪韓団団員たちとの交流に参加した韓国教員**（2026 年度日韓学術文化交流事業訪日団参加）

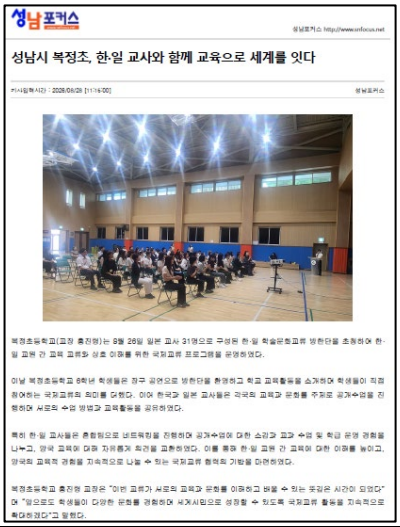
2026 年 6 月、訪日団の一員として日本を訪れた際にいただいた温かい歓迎と真心を今でも忘れることができません。その温かい気持ちに少しでも恩返しがしたいと思い、訪韓団の先生方の授業の通訳やホームステイのホストとして参加しました。しかし、一緒に過ごす時間が増えるにつれて恩返しをしたいと思っていた私のほうがむしろ多くの学びと幸せをいただいていることに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。特に、短いホームステイの間に日本の教員は大切な友人となり、家族とともにかけがえのない思い出を作ることができ、人と人との心がつながっていく交流の素晴らしさを実感しました。

こうした経験を通して生徒たちが言葉や文化の違いを越えて互いを理解し、尊重しながら、より広い視野を持って世界を見ることができるよう支えることが教師の大切な役割なのだと改めて感じました。これからも私がいただいた温かい気持ちを生徒たちへ伝え、生徒たちがその温かさをまた誰かに届けられる人へと成長していけるよう、ともに歩んでいきたいと思います。

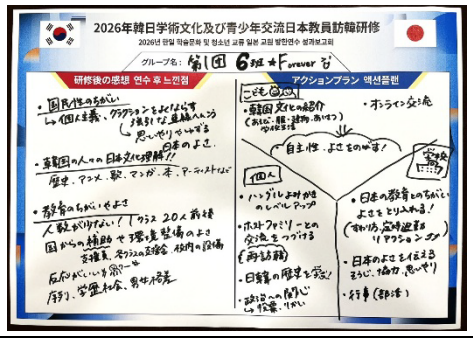
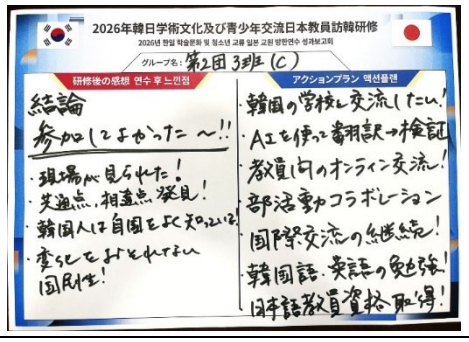
５．参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

<table>
<tr>
<td> 
</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>2026 年 8 月 25 日（Facebook）
すばらしい研修に参加しています。大歓迎に感動。</td>
<td>2026 年 8 月 29 日（Instagram）
学校訪問や授業参観、DMZ、国立中央博物館、ホ</td>
</tr>
</table>

ソウルの学校では授業まで行いました。言葉は異なったとしても、児童たちの反応や笑顔は同じ。日本について多くのことを知っていただけたかと思います。（中略） 韓国の先生方とも交流しました。日韓両国の教育問題は大変似ていると感じました。保護者対応や「総合的な学習（探求）の時間」の今後等。 共通点と相違点に心を躍らせながら、今後のオンライン交流の計画を立てていきます。	ームステイなど、実際に韓国の教員・歴史・文化・生活に触れる中で、日本にいるだけでは得られない多くの学びがありました。 特に印象に残ったことは、韓国の教育現場で、自分の考えを持ち、それを相手に伝える「発信」を大切にしている姿です。一方で、日本の教育が大切にしてきた協調性のよさにも改めて気づくことができました。どちらかを比べて優劣をつけるのではなく、それぞれのよさを知り、自分の教育にどう生かすかを考える貴重な機会となりました。
2026.08.24-30 2026년 한일 학술문화 및 청소년 교류 일본 교원 방한 연수 今回の研修で感じたことは、知ろうとすること、実際に体験することの大切さです。 小学校への訪問やホームステイ等を通して韓国の方々と言葉を交わす中で、国籍は違えど共感できるところや同じ悩みを抱えていることを知ることができました。また、実際に小学校で授業を行うことで、韓国の児童と関わり、日本のよさを伝えたり、韓国の教育の特徴について自身も学んだりすることができました。 勇気を出して一歩踏み出し、研修へ参加したことでかけがえのない経験をすることができました。 今回の研修で終わりではなく、これから韓国の歴史や言語についてより詳しく学び、日韓をつなぐ架け橋となれるよう取り組んでいきたいと思います。 #jenesys2026 #Jenesys	
2026 年 8 月 29 日（X） （前略）小学校への訪問やホームステイを通じて韓国の方々と言葉を交わす中で、共感できることや同じ悩みを抱えていることを知りました。また、実際に小学校で模擬授業を行うことで、韓国の児童と関わり、日本のよさを伝えたり、私自身も韓国の教育の特徴について学んだりすることができました。今後も日韓をつなぐ架け橋となれるよう、取り組んでいきたいと思います。	2026 年 8 月 29 日（Facebook） 8/24～8/30 まで、日韓学術文化交流事業訪韓団の一員として、韓国を訪問しました。（中略） 私立高校、公立中学校、DMZ 見学など、様々な体験をしました。韓国の先生方だけではなく、 日本全国から集まった先生方からも刺激を受けました。この貴重な経験をこれからの学校生活に生かしたいと思います。中学校で書写の授業をさせていただきました。

	
2026 年 8 月 28 日（城南フォーカス） ・見出し：「城南市セッピョル中学、日本からの訪韓教員団と韓日文化交流特別授業実施」、・本文：日本の教員がセッピョル中学校を訪問し日本文化紹介の模擬授業を実施したこと、近隣他校からの教員も参加した交流会では両国の教育に関して意見交換を実施したことに加え、「意義深い交流だった」との受入校の感想などを紹介。	2026 年 8 月 28 日（城南フォーカス） ・見出し：「城南市福井初等学校、日韓の教員が共に教育で世界をつなぐ」、・本文：日本の教員が福井初等学校を訪問し、同校の児童に対し模擬授業を行ったことの他、同校教員たちとのグループディスカッションを通じて、教科授業や学級運営等、相手国の教育に対する理解を深めるとともに、今後の継続的な交流の可能性等について紹介。

６．報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）

	
【成果の発表】 ・韓国では日本に対する偏見があるのではないかと心配していたが、実際に交流してみると、一人ひとりの思いやりを感じることができたため、「国際理解や実際に体験することの大切さ」について、児童にも伝えていきたいと思いました。 ・韓国における日本の印象は想像以上によく、驚きを得るとともに、日本語が話せる方も多いなど、日本に対する関心の高さがうかがえました。	【成果の発表】 ・韓国の教育現場視察、韓国の教育関係者との意見交換を通して日韓の教育の共通点、相違点を見出すことができました。 ・韓国の教育関係者と日韓の教育分野での共通課題についても意見交換を行いましたが、日本の教育の優れた点も再認識しました。 【アクション・プラン】 ・プログラムで出会った韓国の教員との間で交流を継続し、国際理解の授業や部活動交流などを通

【アクション・プラン】 ・日韓双方が相手国の教育面での長所を取り入れていけるよう、例えば、周囲と協力したり相手に譲ったりする姿勢や児童自らが掃除する点等、日本の教育面での長所について発信していきます。 ・「総合」「英語」「社会」の授業時間で、韓国の小学校とオンライン交流を実施します。 ・訪韓経験を共有するために、児童向けに全校集会で紹介したり、同僚の教職員向けに校内研修を開催したりします。	じた交流を企画します。 ・校内の教職員向け以外にも、教育関係の研究会で広く経験を共有し、日韓の教員同士をつなぐコーディネーターとしての役割も積極的に果たして行きたいと思います。 ・国際交流では自身の考えの発信のための言語学習も欠かせないと感じました。英語や韓国語のレベルアップを図りたいと思います。 ・海外の方に日本語を教えられるよう、日本語教師の資格取得を目指します。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金